

## 頭部打撲の話

「頭部を打撲して、頭の中に出血すると大変なことになる。」ということは一  
般の方にもよく知られています。しかしながら、頭を打撲した後にならぬ  
ら危険なのかは、あまり知られていません。転倒して頭部を打撲したり、物が  
頭に当たったりして、意識を失えば危険な兆候だということは誰にでもわかり  
ます。ところが、意識がある時には、大したことがないのか、それとも病院に  
行って検査を受けなければならないのか、正しく判断することは、一般の方  
にとって簡単ではありません。

頭部を打撲しても、意識を失うことがなく、吐き気を感じたり嘔吐するこ  
ともなく、普段と様子が変わりなければ、ほとんど心配はありません。打撲した  
部分の皮膚から血が出ていれば大丈夫だとか、打撲した部分の皮膚から出血が  
みられないから危険だとか言う人がいますが、これは全くの誤りです。打撲し  
た部位から外に出血しているかどうかについては、傷の手当てをする必要があ  
るかどうかは問題であって、頭の中に内出血しているかどうかの判断には役に  
立ちません。

頭をぶつけて意識を失っても、すぐに意識が回復した時は、多くの場合は脳  
震盪（しんとう）です。単なる脳震盪であれば頭の中に出血がおこるわけでは  
ありませんので、命にかかわるようなことになったり、後遺症が残ったりする  
ようなことはありません。ところが、一時的に意識を失っても、意識が回復す  
れば大丈夫かという、必ずしもそうではありません。注意が必要なのは頭部  
を打撲してからの経過です。頭の中に出血がおこってくると、気持ちが悪くな  
って嘔吐します。そして頭の中の出血が増えてくると、意識がなくなって、危  
険な状態に陥ってしまうのです。つまり、吐き気や嘔吐がないかどうか、意識  
がもうろうとしてくるようなことがないか、本人は判断できないこともありま  
すので、周りの人が注意深く観察することが必要なのです。酔っぱらって転倒  
して頭を打撲した後で、本人が「大丈夫」と言って歩いて自分の部屋帰ったよ  
うな時に、そのまま放っておくと翌日には昏睡状態になっていたり、命を落と  
してしまったりしますので、頭部を打撲した人を一人にしないことが大切です。

頭部を打撲して頭の中に急性の出血がおこる場合は、急激に出血が増える場  
合から、数時間かけてゆっくり出血が増えてゆく場合までさまざまです。分単

位で出血が増えるような場合は、嘔吐する前に意識を失ってしまうこともありますから、頭部を打撲したあとで意識を失ってぐったりしていたら、様子を見ていないで、できるだけ早く病院へ搬送することが必要です。ゆっくり出血が増えてゆく場合は、頭部を打撲した後でも、しばらくは会話ができたりします。ただ、時間が経過するにつれて、意識がもうろうとして来たり、嘔吐したりしますので、頭部を打撲した人から目を離さないようにすることが必要なのです。

さて、頭部を打撲した後の急性の出血について注意点を述べましたが、年配の人の場合は、頭部を打撲してから1カ月から3カ月ほどかけてゆっくりと、脳と頭蓋骨の隙間に血液がたまってくる慢性の出血を起こすことがあります。慢性硬膜下血腫と呼ばれる病気で、棚にこつんと頭をぶつけたというような、ごく軽い頭部打撲でもこのようなことが起こることがあります。血液がたくさんたまって脳を圧迫すると、頭痛が毎日続いたり、片方の手や足が動かしくなくなったりします。時には、ぼんやりしてしまい認知症と間違われることもあります。慢性硬膜下血腫は、手術をして頭蓋骨に穴をあけて、頭の中にたまった血液を取り除けば、症状は回復します。血液を取り除く手術は、局所麻酔でできる比較的安全な手術です。

また、最近の話題として、セカンドインパクト症候群（別名二次的衝撃症候群）と言われる病態があります。一度脳震盪を起こしてから短期間のうちに繰り返し脳に衝撃が加わると、それほど強い打撲ではなくても、脳がひどくむくんだり、内出血が起こって重篤な状態におちいることがあると言われ、ラグビーや格闘技の様な頭部を打撲することが多いスポーツで注目されている病態です。脳震盪を起こしたら、2週間から4週間の間は、繰り返し頭部を打撲することのないように、注意しなければなりません。脳震盪を起こした後は、短期間のうちにまた頭部を打撲しないよう、少し慎重になっていただく必要があります。